
平成27年度 土木学会全国大会報告

CONTENTS

1. 総括報告	綾野 克紀	ii
2. 基調講演会	藤原 健史	iii
3. 特別講演会	藤原 健史	iv
4. 全体討論会	藤原 健史	v
5. 第70回年次学術講演会	大久保 賢治	vi
6. 研究討論会	近森 秀高	xii
7. 交流会	西村 伸一	xiii
8. 国際関連行事	片山 功三、上田 多門	xiv
9. 映画会	平野 隆	xv
10. アンサンブルシヴィル	珠玖 隆行	xvi
11. 土木コレクション	樋口 輝久	xvii
12. 支部特別企画 「地域の安全・安心に向けた新たなる第一歩～広島土砂災害を教訓に～」	西山 哲	xvii
13. 見学会	比江島 慎二	xviii
14. パネル展示	橋本 成仁	xviii
15. ももちやり	橋本 成仁	xix
16. おかやまNEXT100年コンテスト	藤原 年生	xix
17. 一時保育	小松 満	xx
18. 実行委員会組織図	小松 満	xx
19. 平成28年度全国大会の紹介	東北支部	xxii

1. 総括報告

キャッチフレーズ

平成27年度土木学会全国大会は、9月16日(水)～18日(金)の3日間(土木コレクションは20日(日)までの5日間)、岡山大学津島キャンパス(写真1)、岡山プラザホテルおよび岡山シティミュージアムを会場に実施した。



写真1 津島キャンパス

この大会のキャッチフレーズは、土木学会の活動目標と行動計画であるJSCE2015「あらゆる境界をひらき、市民生活の質向上を目指す」に基づき定めたものである。急速に進む人口減少、少子化、高齢化で建設費への投資額が減少する一方、豪雨、巨大地震による作用は大きくなっているが、その作用に耐えるためのインフラは老朽化している。安全安心で持続可能な社会を構築してゆくためには、ハードによって作用を抑え込むことは既に不可能で、市民の参画、市民との連携によるソフトな面からの取り組みが必要である。これらの課題をあらためて確認し、これからの100年の第一歩として、今やるべきことを問う大会のテーマとして、「地域とともに確かな未来を築く土木技術～新たなる第一歩～ Civil Engineering to Create a Future Positive with Community -We are going to take a new step forward.-」とした。

キャッチフレーズに従い、特別講演は、地方公共交通再生に携わってきた小嶋光信氏(両備ホールディングス株式会社代表取締役会長兼CEO)にお願いをした。両備ホールディングス株式会社は、たま駅長で有名な和歌山電鉄も所有する会社である。知行合一の精神と官設民営の理論によって「民を守る」ために土木工学がなすべき役割をご講演頂いた。また、

全体討論会は、阿部宏史氏(岡山大学副学長)をコーディネータに、土木工学の原点であり不変の使命である「国民の生活を守ることに立ち戻り、「今、土木がやるべきこと、できること」が何であるのか、さらに、次世代の子供たちに強くしなやかで美しい国土を引き継ぐという土木技術者のメッセージをどのように発信していくのかを、各分野で活躍されているパネリストと共に議論した。

大会スケジュール

岡山大会で第70回を数えた年次学術講演会では、研究の背景が説明でき、かつ、質疑応答もできるように、発表9分、質疑4分の合計13分を標準とした。また、USBを用いてデータを社外に持ち出すことの難しい講演者および動画等のソフトウェアに依存するデータを用いて発表を行いたい講演者に配慮をし、持参のパソコンも使えるようにした。休憩時間も、パソコンの設置またはデータのインストールに要する時間を考慮し、長めに設定をした。大会初日は、全国大会を初めて開催した岡山の街も探訪できるよう、16時40分までに行事を終えた。また、最終日は、16時までに年次学術講演会を終え、研究討論会のみを残して片付けが行えるスケジュールとし、ボランティアで協力頂いた社会人スタッフの負担を軽減する工夫を行った。

運営体制

大会の運営は、年次講演WGと特別講演WGからなる学術部会と、総務WG、経理WGおよび企画WGからなる総務部会に分かれて行った。学術部会長および年次講演WGと特別講演WGの主査は、岡山大学が担当し、総務部会長と、総務WG、経理WGおよび企画WGの主査は、国土交通省中国地方整備局が担当した。各WGの実行委員会委員、当日の手伝いをお願いした社会人スタッフおよび学生スタッフの数を表1に示す。

表1 スタッフ数

	実行委員	社会人スタッフ	学生スタッフ	合計
年次講演WG	21人	22人	172人	215人
特別講演WG	30人	3人	0人	33人
総務WG	11人	21人	41人	73人
経理WG	6人	5人	0人	11人
企画WG	22人	8人	13人	43人
合計	90人	59人	226人	375人

大会運営のサポートに旅行代理店と契約をしたが、随意契約とならないよう、発注単位毎に相見積もりをとるとともに、都度払いを行うことで、当初の参考見積もりで1,600万円であった委託費が、半分の約840万円の委託費となった。旅行代理店の管理費が10%であるので、単純に約80万円の経費削減となった。また、実行委員会の当日の大会マニュアルを実行委員自らが作成し、ホームページも、幹事長が作成することで、200万円を超える支出を抑えた。これらを原資として、交流会(写真2)および見学会の補助に充てた。



写真2 交流会

事業と経費

岡山大会で行った事業は、下記のとおりである。

基幹事業：年次学術講演会、研究討論会、特別講演会(基調講演)

本部事業：国際関連行事、映画会、土木コレクション、アンサンブルシヴィル

実行委員会企画事業：全体討論会、交流会、見学会、パネル展示、ももちやり、支部特別企画「広島土砂災害を教訓に」

これらの事業に対して、本部からの交付金は3,450万円で、実行委員会で集めた寄付および助成金は423万円で、交流会および見学会の参加費は390万円であった。基幹3事業(学術

2. 基調講演会

基調講演会では、ひろせのりあき廣瀬典昭土木学会会長から、「次代に繋ぐ土木技術者の「志」と「熱意」』という演題で講演があった。講演内容の概要は、以下の通りである。

表2 行事ごとの参加者数

行事名	合計
基調講演会・特別講演会・全体討論会	800人
交流会	625人
年次学術講演会	16,391人
研究討論会	1,758人
国際関連行事	224人
中国支部特別企画	70人
映画会	261人
見学会	103人
パネル展示	351人
土木コレクション	758人
合計	21,341人

講演会、研究討論会、特別講演会(基調講演)、全体討論会の運営費は、本部からの交付金3,450万円で、交流会、見学会、パネル展示は、実行委員会の努力で削減した経費および参加者の自己負担で賄った。また、本部委員会の事業は、実行委員会で集めた寄付を充てた。収益差額は、670万円となり、これは、中国支部での次回開催費用のための繰越し金とした。

交流会や見学会の申込みだけでなく、実行委員会の経理にも銀行のモバイル決済を利用し、実行委員が極力現金に触れることなく、かつ、効率よく決済が行えるようにした。モバイル決済に要した費用は、25万円程度で、十分な費用対効果が得られた。

大会参加者数

岡山大会の年次学術講演会への論文発表件数は、3,286件で、過去5ヶ年で最多であった。また、各行事の参加者数は、表2に示すとおりで、こちらも過去最多であった大阪大会に匹敵する人数であった。なお、海外からの参加者数は、214名であった。海外からの参加者および英語による発表が増えていることを考慮し、誘導看板および大会ホームページは英語を併記するとともに、講演要領も、英語版を用意した。

(幹事長 綾野克紀)

土木学会は、昨年、創立100周年を迎え、「社会と土木の100年ビジョン」と今後5年間の行動計画であるJSCE2015を策定した。今年は、新たな100年に向けて第一歩を踏み出



写真3 廣瀬典昭 土木学会会長

すスタートの年であり、JSCE2015で注力すべき重点課題として挙げられた10項目を滞りなく着実に実行していく必要があることが強調された。これらの重点課題の中から、特に強靱で持続的な国土を形成していく上で、現在懸念されている「地球規模での気候変動」や、我が国に特有な自然環境に起因する「自然災害の質的变化」と、我が国が国際社会の一員としての役割を果たすべき海外の国々との開発協力において考慮すべき「国際展開の質的变化」について具体例をいくつか取り上げ、自然環境、社会環境、国際環境など様々な変化から生まれる新たな課題をも踏まえつつ、時代に即した土木学会としての役割を果たしていかななくてはならないと述べられた。

これらの課題に対処するためには、「志」と「熱意」を持った土木技術者の育成が重要であり、中でも次代に繋ぐ若手技術者を育てていくことに力を注いでいきたいとし、土木技術者に強く求められる素養としては、「問題を認識し、与えられた条件の中で最適解を見つけ出ししていくプロセスを、自ら考えて行動し遂行する」いわゆるエンジニアリングデザイン能力を身につけ、市民とともに活動する技術者であること、海外事業においては特にそうであるが、現地の状況や事情に即したインフラ整備のみならず地域・産業

振興などに結びつくような包括的な視点が必要であり、技術力と共にリーダーシップやコミュニケーション能力、対処すべき問題の認識とそれを解決する能力などが、これまで以上に強く求められていることが指摘された。また、これらの素養を習得するための手段としては、市民の中に入って市民とともに考え行動する市民普請などの活動が良い参考になることや、日本の近代土木に貢献した数多くの逸材を育成した廣井勇や、海外開発事業を多く手がけ発展途上国に貢献した久保田豊など困難な事業を成し遂げてきた先達の生き方から学ぶことなどが具体例として説明された。

最後に、現在の私たちは、先輩土木技術者たちが築き上げた社会インフラ資産の恩恵により、ある程度安全が確保され、あまり不便を感じることなく日常生活を営むことができている。しかし、インフラのストックは、いまだ十分であるという状況ではなく、既存の施設の延命化や更新は喫緊の課題となってきている。さらに、近年の自然災害の質的变化などに見られるように新たな課題も顕在化してきている。これらの課題に立ち向かい、我々の先達がそうしてくれたように、我々もまた、より良い遺産を残していくこと、そして、その「志」と「熱意」を受け継いでいく次代を担う若手技術者を育てていくことが、土木学会の使命であると述べられた。

(総務部会総務WG 藤原健史)

3. 特別講演会

土木工学と土木技術者の使命

—津田永忠の偉業と 地方交通再生に学ぶ—



写真4
両備ホールディングス株式会社
代表取締役会長
兼 CEO 小嶋光信氏

講演では、江戸時代初期、岡山の地で領民のために治水・土木事業等々を行った津田永忠という人物とその偉業について紹介された。知識は持っているだけでは駄目で使われなければ知らないことと同じという意味の「知行合一」など、陽明学を学んだ津田永忠がその生涯で自ら実践した含蓄の深い言葉が紹介された。土木工学と土木技術者の使命を市民への貢献という原点に戻って考えさせられる講演であった。講演内容の概要は、以下の通りである。

両備グループは、運輸・観光・情報・生活・文化に関する事業を展開する企業グループあり、「忠恕(=真心からの



写真5 特別講演会の様子

思いやり)」を経営理念に、「知行合一(=良いと思うことは必ず実行する)」を行動規範としているが、これは江戸時代の岡山藩郡代で、「土木巧者」として知られる津田永忠の顕彰活動から示唆を得たものである。津田

永忠には、岡山後楽園や閑谷学校、百間川、倉田・幸島・沖新田などの整備といった数々の偉業がある。津田永忠は、治政や土木は民の苦しみを救うことにあるという「土木は治政」という信念と、知って

いることを行動に移さなければ意味がないという、陽明学の命題の一つでもある「知行合一」を実践した人物である。また、藩内各地で優れた治水・土木事業を行ない、土木は一石で二鳥も三鳥も落とせることを示した。閑谷学校には、300年後の現代までメンテナンスがほとんど要らない素晴らしい土木技術が詰めこまれており、土木が一つの文化となっている。百間川の荒手の仕組みには自然に逆らわない設計思想が盛り込まれており、土木は自然との共生を目指すべきものである。このように、岡山には世界有数の土木資産群がある。最後に、土木はCivil Engineeringと呼ばれるように、「民を守る、市民に配慮する学問」であることを意識しなければならないと述べられた。(総務部会総務WG 藤原健史)

4. 全体討論会

全体討論会では、岡山大学副学長の阿部宏史氏をコーディネータとし、「地域とともに確かな未来を築く土木技術～新たなる第一歩～」のテーマについて議論された。パネラーには「土木学会100周年を踏まえて、土木技術者の進んでゆく方向」についての意見も求められた。

最初に国土交通省技監の池内幸司氏からは、社会資本整備・管理における重点分野に、防災・減災対策の充実・強化、戦略的な持続管理・更新、ストック効果を重視したインフラ整備・管理の3つの視点を持って取り組んでいることの講演があった。これからの方向として、人口減少に合わせてコンパクトなネットワークを形成してまちを小さくすることや、圏域をネットワークでくくって連携したまちづくりを行う必要があるとの意見が述べられた。NHK解説委員の後藤千恵氏は、これからのドボクには「良いものを作る」ことと「みんなで守る」ことが必要であり、前者には1)「愛」100年使い続けられるモノ、2)「志」実現させるための仕組み、3)「人」同志を増やし繋ぎ広げることが大切であり、後者には住民が参加する小さな取り組みを広げていくことが大切であると講演された。鹿島建設株式会社の須田久美子氏は、政府は2020年までに職場の女性の割合を30%まで引き上げる目標を掲げているが、「ドボジョ」と呼ばれる女性の土木技術者の割合はまだ低い、原因にド

ボジョの知名度が低いことがあり、現場を経験させてやりがいを持たせ、一方で保育士や介護士の数を増やすなどの職場改善が必要であると講演された。真庭市長の太田昇氏は、真庭市では東京には無くて真庭にあるものを探すことをモットーとし、高齢化が進む中で65歳以上の人材も地域の戦力として使っていること、また現在、バイオマス発電、バイオマスリファイナリー事業、生ごみ・バイオマスの地域利用、観光産業「バイオマスツアー真庭」の整備などに力を入れていると講演された。東京工業大学教授の桑子敏雄氏からは、社会的合意形成の仕組みの無い組織の中でどのように合意に持ってゆくかが「まちづくり」には重要である。20年や30年の長いプロジェクトを地域で持続させる



写真6 全体討論会の様子

ことは難しく、社会的合意形成をマネジメントすることはさらに難しい。合意形成プロセスの構築は、社会を維持してゆく上での「技術」と言えるだろうとの講演があった。最後に、NPO法人吉備野工房ちみち理事長の加藤せい子氏は、備中神楽で使う舞台の通路の「ちみち(千道)」にちなみ、地域と地域を繋ぐ取り組みを紹介した。子供達に大人が生き生きとしている背中を見せ、価値観を育て、地域、モノ、ヒトを繋いでゆくことが活動の主旨である。国土交通省から職員の方々を呼んで国の仕事を聞いたり、橋をトンカチでたたいて音の違いを聞く活動を行っており、仕事

をする人の顔が見えることが大事だとのことであった。

最後にコーディネータは、以下のようにまとめられた。土木の目的は国民の生活を守ることであり、熱意を持つ人材の育成が必要である。持続可能な社会を築くために、礎となるインフラの整備をしっかりと行うことが土木の役割である。小嶋氏の講演で300年という話があったが、100年より長いスパンで土木を考えなければならないことを痛感した。社会と自然が激変する中で、地域社会は地域全体で協働しながらしっかりと考え作ってゆかなければならない。

(総務部会総務WG 藤原健史)

5. 第70回年次学術講演会

第I部門から第VII部門および共通セッション、計8部門の学術講演が66の会場で並行して行われた。1日目に3セッション、2日目午前に2セッション、3日目4セッションが予定通り開催され、全部門で567セッションが行われた。

例年に比べセッション数が増加したが、これは、今年はいくつかの発表時間を例年よりも2分延長して9分とし、1

セッション6件の発表を基本にしたためである。また、今大会では、従来の備付PCによる発表に加えて持込みPCによる発表も認め、切替器を用いた運営を行った。これらは会員の声に応じたもので、大会アンケートでも概ね好評価を頂いた。今後も会員の要望に耳を傾けながら、よりよい方法を模索していく必要がある。

学術講演会会場は、一般教育棟DE棟(第I部門)、環境理工学部棟(第II部門)、工学部1号館(第III部門)、農学部I号館(第IV部門)、文法経講義棟(第V部門)、一般教育棟ABC棟(第VI部門)、工学部5号館(第VII部門)、理学部本館(共通セッション)に設置され、これらを統括する本部は大学会館内に置いた。学術講演会の各部門を運営には年次講演WGの実行委員21名に加え、社会人スタッフとして中国地方の大学、高専および企業から22名、学生スタッフとして岡山大学生を中心に中国地方の土木系、環境理工学系の学生総勢172名が参加した。学術講演会と研究討論会との引継ぎも各部門の責任者、スタッフの連携で滞りなく進められた。学術講演会の様子を写真7に示す。本年度の論文投稿件数は第I部門：620編、II：235編、III：426編、IV：129編、V：654編、VI：795編、VII：147編、CS：280編で、合計は3,286編である。3日間の学術講演会の延べ参加者数は16,391人に及ぶ。表3に、優れた研究発表を行った40歳以下の研究者および技術者に与えられる優秀講演賞の受賞者一覧を示す。



写真7 学術講演会(I-8会場(上); V-1会場(下)、9月18日)

(学術部会年次講演WG主査 大久保賢治)

表3 優秀講演者

講演番号	会員種別	講演者	所属	講演題目
I-020	正	波田 雅也	青木あすなろ建設	橋梁の制震化に用いる摩擦ダンパーの実験的研究(その2:L2地震時の履歴特性)
I-025	学	加藤 弘務	名城大学	芯材に波形鋼帯板を適用したBRB(RP-BRB)の解析的検討
I-030	正	河田 直樹	西日本高速道路エンジニアリング関西	曲線を有する2径間連続鋼ポータルラーメン橋の実挙動
I-063	正	リュウ ウェン	千葉大学	高解像度SAR画像を用いた福島第一原子力発電所の状況把握
I-089	学	成田 顕次	横浜国立大学	橋梁走行中の大型トラックの地震時転倒解析
I-100	正	谷口 惺	阪神高速道路	西船場JCT改築事業における犠牲橋脚を用いた耐震設計
I-112	正	田中 浩平	鉄道総合技術研究所	杭基礎形式の超連続基礎を有する高架橋における地震時挙動の把握
I-123	正	李 首一	ドゥユー大地	メナーゼヒンジの回転剛性を考慮したロッカー橋脚を有する橋梁の耐震性能検討
I-131	学	有山 大地	大阪市立大学	支承条件およびウェブギャップの高さが端対傾構を有する桁端部の耐荷性能に及ぼす影響
I-150	正	青木 千里	東日本旅客鉄道	旅客・保守施設建造物の設計に関する一考察
I-153	学	岩瀬 貴弘	芝浦工業大学	高速道路盛土の微動測定から推定した振動特性と盛土内水位の関係
I-160	学	塩野谷 遼	中央大学	構造形式の異なる三種類の実タンクにおけるバルジング挙動の比較
I-163	正	玉井 誠司	清水建設	左右非対称形状を有する重力式コンクリートダムの動的クラック進展解析
I-175	正	本山 紘希	鉄道総合技術研究所	振動数および振幅を変化させた載荷試験による杭基礎モデルの減衰評価(その2 減衰の試算)
I-177	正	篠原 聖二	土木研究所	正負交番載荷実験による3ヒンジ式プレキャストアーチカルバートの地震時限界性能に関する検討
I-226	学	長谷川 尚輝	明石工業高等専門学校	直下地震で見られる跳び石現象に関する一考察
I-227	学	若山 萌美	首都大学東京	鋼製門型ラーメン橋脚隅角部の応力特性および終局強度
I-240	学	井比 亨	長岡工業高等専門学校	高強度補剛材で補剛される単リブハイブリッド補剛板の圧縮強度特性
I-257	学	安積 恭子	大阪大学	径厚比パラメータが比較的大きい円形断面鋼製橋脚の耐力及び変形能の評価法
I-264	正	佐野 翔太郎	日鐵住金建材	金網のエネルギー吸収性能について(その1)
I-272	正	阿部 孝章	寒地土木研究所	杭構造物の衝突による氷板破壊に関するMPS法を用いた数値解析的検討
I-274	学	上野 裕稔	防衛大学校	高速衝突を受ける繊維補強コンクリート板の局部破壊限界板厚の評価法に関する検討
I-283	学	内藤 和彦	長岡技術科学大学	実斜面を想定した緩衝金具を有する落石防護網の静的解析法に関する研究
I-287	学	勝見 悠太	室蘭工業大学	凍害劣化したRC 梁の耐衝撃挙動
I-309	学	熊崎 達郎	早稲田大学	脚柱とフーチング間に座屈拘束ダンパーを設置した既存 RC 柱の耐震性能評価
I-319	正	栗原 幸也	東電設計	変電所鋼構造物の耐震解析システムの開発と課題
I-325	学	石川 幹生	筑波大学	トラス橋の斜材破断が走行車両の振動特性におよぼす影響の数値的検討
I-332	正	田井 政行	木更津工業高等専門学校	腐食により偏って減肉が生じた高力ボルトの残存軸力評価法の検討
I-364	学	齋藤 史弥	芝浦工業大学	主板・付加板両止端部への低温相変態溶接棒の適用性
I-371	学	本田 直也	名古屋大学	レーザー・アークハイブリッド溶接を用いた荷重伝達型十字継手の疲労強度
I-399	正	米村 大和	中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋	アーチ橋の補剛桁ウェブと横桁フランジ接合部の疲労き裂を行うICR処理
I-402	学	光永 知央	徳山工業高等専門学校	超音波板厚測定による道路照明柱基部の簡易な平均板厚評価に関する研究
I-408	学	竹谷 晃一	東京工業大学	橋梁振動を対象とした二質点同調質量系発電デバイスの実橋への適用
I-417	学	平尾 みなみ	九州大学	鋼橋に設置したモニタリング鋼板の腐食生成物層の厚さと平均腐食深さの相関評価
I-427	正	長澤 慎	新日鐵住金	3%ニッケル高耐候性鋼模倣橋梁体による海浜地区長期曝露結果(第8報)
I-440	学	土橋 洋平	九州大学	Al-Zn合金鋳造材と繊維シートを用いた腐食鋼部材の大気犠牲陽極防食技術に関する研究
I-446	正	井合 雄一	IHI	防食シートの適用性に関する検討
I-451	学	月岡 桂吾	東京工業大学	反射・透過係数法を用いた境界要素法による積層構造の弾性波動解析
I-458	学	草野 吉俊	長崎大学	誘導加熱装置を用いたデジタル画像相関法による鋼材の亀裂検知に関する研究
I-465	正	京川 裕之	鹿島建設	岸壁・護岸を対象とした地盤固化による低コスト液状化対策技術の解析的評価
I-480	正	藤田 航平	理化学研究所	大規模地盤震動解析を使った都市地震シミュレーション
I-505	学	辛 浩	京都大学	フランジに引張接合を用いた鋼桁連結部の強度算出法に関する検討
I-510	学	河本 隆史	京都大学	スタッドボルト接合の併用による当て板接着鋼板の剥離抑制効果
I-516	学	金山 惇志	広島大学	腐食損傷に対するCFRP及び鋼板接着の力学特性
I-524	学	黒木 唯真	大阪市立大学	超高強度繊維補強コンクリートを用いた小規模鋼桁橋への補修・補強解析
I-532	正	池頭 賢	西日本旅客鉄道	鉄道橋Iビーム桁支点首部の疲労き裂対策
I-537	正	石川 裕一	中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋	性能照査型維持管理法の導入に伴う北陸自動車道の活荷重に関する一検討
I-544	学	磯辺 弘司	早稲田大学	南海トラフ地震による三重県沿岸部に架かる橋梁構造物の地震・津波リスク評価に関する基礎的研究
I-557	正	党 紀	埼玉大学	経年劣化されたゴム支承の終局ひずみの確率分布推定と橋梁の耐震性能評価
I-583	学	和田 光平	京都大学	横風中を走行する車両に作用する空気力に関する考察
I-584	正	松宮 央登	電力中央研究所	着氷雪電線の鉛直自由度系ギャロッピングにおけるリミットサイクル振幅評価

講演番号	会員種別	講演者	所属	講演題目
I-591	学	野口 恭平	京都大学	領域気象モデルによる風況及び飛来塩分の推定
I-613	正	石橋 正博	首都高速道路	主桁ウェブ変形に対するCFRP補強の効果検証
II-002	正	本山 健士	土木研究所	天然凝集材を用いた効率的な貯水池濁水処理手法の検討
II-011	学	竹内 友彦	北見工業大学	コムケ湖における融雪期の地下水浸透流が干潟水質に及ぼす影響
II-040	学	南 まさし	東京理科大学	河川漂流ゴミ輸送量の新たな自動連続モニタリングシステムの開発と最上川への適用
II-052	学	山元 雄生	日本大学	階段状水路におけるnonaerated skimming flowのエネルギー
II-062	正	内田 龍彦	中央大学	種々の水深積分モデルを用いた湾曲部三次元流れ機構と適切な解析法の考察
II-087	学	笹木 拓真	中央大学	外岸に緩傾斜河岸を有する湾曲水路における底面流速解析法の適用性
II-097	正	後藤 岳久	中央大学	取水用砂堰の繰返し崩壊による低水路幅縮小とその軽減策に関する研究
II-120	学	向井 健朗	東洋大学	階段状魚道での礫堆積による流況変化と魚類の行動特性
II-132	正	岩村 俊平	エコー	台風による移植サンゴの物理的攪乱要因の考察と対応策の検討
II-139	学	池田 香澄	東京都市大学	伊勢湾における年齢による海水交換特性と貧酸素水塊の形成に関する考察
II-155	学	松井 大生	中央大学	非静水圧準三次元解析法による津波河川遡上・氾濫流解析の検討
II-161	学	仲村 渉	九州大学	越波飛沫の計測法について
II-167	学	豊田 将也	岐阜大学	高解像度台風—高潮結合モデルによる台風1330号の災害外力に関する再現実験
II-175	正	高島 知行	大成建設	津波により取放水路天端に作用する圧力の再現解析
II-198	学	関根 貴広	早稲田大学	XRAINによる降雨データを用いた東京都心部のリアルタイム浸水予報に向けた試み
II-210	正	八木 啓介	大成建設	香川県の地下水流動に関する解析的検討
II-211	正	永田 政司	高速道路総合技術研究所	高エネルギー吸収型防護柵による土石流捕捉事例の検証
II-218	学	田中 智大	京都大学	総降雨量と降雨継続時間の関連を考慮した総合確率法の改良
II-224	学	小林 香野	早稲田大学	石神井川を対象とした豪雨時の浸水数値予測
II-235	学	水野 力斗	東京理科大学	水害避難時の歩行速度に対する周辺環境影響に関する実験的検討
III-006	学	富吉 俊介	横浜国立大学	ほぐし造粒技術の実規模レベルでの適用性
III-024	学	上村 健太郎	東京都市大学	薬液改良体のP波・S波速度の経時変化について
III-030	正	山口 恵美	関東学院大学	圧入による密度増加に物理特性が及ぼす影響 —その2—
III-039	正	平岡 伸隆	立命館大学	超音波土中水分・水位測定システムによる自然斜面水分動態監視
III-049	正	三橋 祐太	構造計画研究所	ジョイント要素を用いた不連続性岩盤の解析的検討
III-064	正	伊藤 圭二郎	鹿島建設	泥土圧シールドでの自然由来砒素含有土の酸化不溶化の検討
III-071	正	海野 円	大成建設	自然由来砒素含有土の保管方法および溶出試験条件が溶出挙動に及ぼす影響
III-076	学	新井 拓弥	名古屋工業大学	粒度分布形状と外力条件に着目した管渠周辺の地盤の陥没挙動
III-086	正	門間 正拳	東日本高速道路	「ハーモニカ工法+アンダーピニング工法」による京葉JCT・Dランプの施工(その1)
III-097	学	三銅 佑季	北見工業大学	X線CTスキャンから得た締固め砂質土の空隙分布と飽和透水係数の相関
III-105	正	吉井 恭一朗	東日本旅客鉄道	非開削工法による近接構造物への影響に関する一考察
III-132	学	松下 麗菜	京都大学	2ヒンジプレキャストアーチカルバートの強地震時における損傷形態に関する振動実験
III-139	正	栗原 啓丞	鹿島建設	ミニポアホールレーダの開発と地下水挙動の3次元評価への試み
III-141	学	宮崎 祐輔	京都大学	カルバート盛土抗口部におけるカルバート縦断方向の地震時挙動に関する遠心模型実験
III-155	学	浦田 智仁	早稲田大学	メスシリンダー法による砂とベントナイトから構成される二層構造の吸水特性 —中間貯蔵施設の遮水工設計を想定して—
III-165	正	崔 瑛	名城大学	透水性基礎地盤のパイピングに起因する堤体崩壊に関する模型実験
III-180	正	尾上 博則	日本原子力研究開発機構	深度300mと500mにおける割れ目の分布特性の違いが地下水流動特性に与える影響に関する研究(その1)—全体概要—
III-197	学	梅田 真志	福岡大学	硫酸塩を用いた乾湿繰返し試験による石灰質混合材料の耐久性評価
III-216	学	北迫 勝也	鳥取大学	岩塊の斜面衝突時の速度変化に関する室内模型実験とその数値解析 —岩石平板の場合—
III-234	正	正田 大輔	農研機構	平成26年豪雨での土砂流入時におけるため池の被災実態
III-246	学	中村 大樹	九州大学	道路盛土に敷設した排水性補強材の安全率改善効果について
III-249	学	田中 和穂	東京都市大学	模型地盤用小型動的貫入試験機の開発
III-256	正	長谷川 陽一	国土防災技術	三軸圧力室内に組み込んだ非排水一面せん断試験機の開発
III-264	学	石垣 拓也	東京都市大学	熱伝導による原位置含水比測定法の検討
III-288	学	岩崎 佳介	岡山大学	不飽和砂の間隙水分布と熱伝導特性に関する研究
III-295	学	青柳 悠大	東京大学	複数回液状化試験における消散エネルギーの正負の効果に着目した分析
III-304	学	小西 陽太	京都大学	CO ₂ ハイドレート含有砂供試体の非排水三軸圧縮特性
III-311	正	島田 貴文	鉄道総合技術研究所	狭隘箇所における既設石積み壁の耐震補強に関する検証解析
III-316	正	林田 洋一	農研機構 農村工学研究所	液状化地盤—堤体—貯水の相互作用に伴うアースダムの破壊形態
III-325	正	石川 敬祐	東京電機大学	電子地盤図を用いた浦安市の液状化判定によるPL値と地表面沈下量の関係
III-338	学	赤木 俊文	京都大学	傾斜地盤におけるメタンハイドレート産出過程を想定した地震時の動的解析
III-392	学	広瀬 孝三郎	琉球大学	マッドペーストにおける乾燥収縮亀裂のフラクタル解析

講演番号	会員種別	講演者	所属	講演題目
III-393	学	佐竹 亮一郎	群馬大学	堤体材料の空間的不均質性と系の挙動に関する検討(ため池を例に)
III-403	正	粕谷 悠紀	大林組	スカート・サクシオン基礎の引抜き抵抗に及ぼす載荷速度の影響(その1:大型土槽実験)
III-411	正	加藤 瑞穂	首都高速道路	洪積砂層の地盤反力係数における圧力およびせん断応力依存性
IV-020	学	大澤 脩司	金沢大学	交通・立地統合均衡モデルによる金沢山側環状道路の便益評価分析
IV-023	学	中司 涼介	大阪工業大学	絵図を用いた歴史的景観の復元
IV-035	学	松田 拓也	摂南大学	土地被覆の規模と構成比に着目した透水面分布の空間分析
IV-051	学	鴨 諸一	日本大学	多様な地域的価値を育む海岸防災施設のあり方に関する研究 ―「広村堤防」と広川町住民との関わりからみた津波防災活動に着目して―
IV-060	学	小山 真弘	芝浦工業大学	路線バスの到着遅延分布の形状に着目した時間信頼性評価
IV-087	学	伊藤 真章	名城大学	バス停・トリップ特性に着目したコミュニティバス利用者数の変化要因の分析
IV-099	正	小森谷 隆	鉄道建設・運輸施設整備支援機構	駅設備計画検討支援システムの活用
IV-102	正	藤生 慎	金沢大学	我が国におけるWi-Fiの整備実態に関する一考察 -主要な空港・港・観光地・ターミナル駅を対象として-
IV-109	正	大沢 昌玄	日本大学	土地区画整理事業の小規模化と公共用地創出状況に関する研究
IV-112	学	中嶋 諒太	熊本大学	ゲーミフィケーションを導入した交通行動変容アプリの開発と試行
IV-125	正	鬼塚 大輔	国際航業	ハンブの設置間隔の違いにおける利用者意識に関する一考察
V-004	正	小林 聖	鹿島建設	凝結遅延モルタルの流動性に関する検討を用いたひび割れ抑制手法の実構造物における施工実験
V-007	正	笠 裕一郎	鉄道総合技術研究所	鉄道ラーメン高架橋の初期ひび割れに関する一考察
V-015	学	星野 翔太郎	神戸大学	ASRが生じたコンクリートの空間的ひび割れ状態の把握に関する基礎的研究
V-036	学	山口 紘平	京都大学	PCシースを透過および反射した弾性波の周波数特性に関する検討
V-044	正	皆川 浩	東北大学	散水処理前後の導電率によるコンクリート表層品質評価のフィジビリティスタディ
V-052	学	三歩一 奏人	京都大学	移流拡散方程式を用いたコンクリート表層部への塩分侵入における乾湿繰り返しの影響の評価
V-072	学	中村 麻美	東京工業大学	収縮および強度発現性状が異なる高強度RCはりのせん断破壊挙動
V-086	学	井関 宏崇	京都大学	断面修復後のマクロセル腐食が鉄筋の腐食速度に与える影響
V-093	正	服部 雅史	高速道路総合技術研究所	金属溶射の複合サイクル促進試験による耐久性 ―クロスカットの影響試験―
V-107	正	笠倉 亮太	東急建設	高強度コンクリートパネルと高強度繊維補強モルタルを用いて補強したRC柱の破壊性状に関する実験的検討
V-112	学	墨野倉 駿	筑波大学	座屈する異形鉄筋の圧縮応力―歪関係の提案
V-126	学	川崎 敏嗣	京都大学	接着剤および炭素繊維を適用したブラケット構造の曲げ接着強度の既設コンクリートの強度の影響
V-135	学	山口 寛史	東京大学	異形鉄筋の低応力疲労引抜け破壊に及ぼす水の供給の影響
V-146	学	諸橋 拓実	東北大学	断面補修後に再劣化したRCはりの点検と耐荷力特性に関する検討
V-148	正	山崎 大介	鹿島建設	橋梁上部構造の拡幅に伴う橋脚横梁の改築と補強
V-160	正	横田 祐起	鹿島建設	光ファイバーを用いたPC鋼より線の緊張力計測
V-172	学	大野 優華	名古屋大学	PCa部材と現場打ち部材の接合部のヒンジ挙動に関する検討
V-178	正	作榮 二郎	BASFジャパン	C-S-H系早強剤によるフライアッシュセメントB種を使用したコンクリートの強度発現性
V-188	正	内藤 圭祐	東日本旅客鉄道	接着系および施工アンカーの耐アルカリ性に関する実験的検討
V-211	学	山田 悠二	徳島大学	タンピング試験による重量コンクリートの施工性能評価に関する一検討
V-215	正	橋本 紳一郎	福岡大学	振動加速度の計測によるコンクリートの圧送性の評価 ～加速度のピーク値と周波数を指標とした圧送性評価～
V-225	学	二本柳 拓	長岡技術科学大学	水平打継面における処理方法の違いが表面形状および付着強度に及ぼす影響
V-243	学	佐久間 翔平	日本大学	フレッシュコンクリートの流動評価に関する一考察
V-248	学	大園 理貴	鹿児島大学	シラスコンクリートを用いた水中コンクリートに関する基礎的検討
V-252	正	足助 優二	首都高速道路	既設グーアスファルト混合物への熱影響検討
V-281	正	藤岡 彩永佳	鹿島建設	異なる物質透過性試験を用いた熱可塑性樹脂シートの養生効果に関する検討
V-283	正	御領園 悠司	清水建設	超撥水機構を有する型枠の材質と勾配がコンクリートの表面気泡におよぼす影響
V-299	学	畠中 優成	鹿児島大学	メタカオリン含有人工ボゾランを使用したコンクリートの中性化抵抗性に関する基礎的研究
V-306	正	浜梶 方希	西日本高速道路	新名神高速道路の舗装損傷に関する開削調査結果
V-313	正	澤井 良兼	西日本高速道路	中温化技術を用いた厚層施工の検討
V-336	学	伊東 希典	中央大学	乗り心地に関する脳波を用いた主観的評価
V-351	正	寺崎 寛章	福井大学	国道8号福井県内区間における路線滑り評価に関する一考察
V-384	正	村田 拓海	飛鳥建設	二階建て集合住宅の丸太打設液状化対策事例における炭素貯蔵量
V-418	正	中畑 和之	愛媛大学	メソスケール構造に着目したコンクリート中の超音波伝搬特性に関する考察
V-427	学	林本 和也	大阪大学	接着系および施工アンカーを対象とした衝撃応答に基づく接着材充填状況の非破壊評価手法
V-435	正	半井 健一郎	広島大学	ボックスカルバートおよび附属試験体における表層品質測定

講演番号	会員種別	講演者	所属	講演題目
V-450	正	皿井 剛典	川崎地質	孔内局部荷重試験によるレンガの物性評価に関する研究
V-470	学	須藤 俊幸	新潟大学	水蒸気吸脱着試験と水銀圧入法によるセメント系硬化体の空隙構造の評価
V-473	学	室谷 卓実	金沢大学	モルタル中の骨材が気泡の空間分布のランダム性に与える影響
V-479	正	木村 祥平	三菱マテリアル	銅スラグ細骨材を使用したコンクリートの諸特性に関する調査
V-484	正	宮原 茂禎	大成建設	高炉スラグ微粉末を大量使用した環境配慮コンクリートの湿潤養生
V-494	学	荒川 理加	日本大学	フライアッシュのボゾラン反応に及ぼす熱養生の影響
V-499	正	中村 英佑	土木研究所	屋外・室内・土中・促進環境における混和材を用いたコンクリート・モルタルの中性化進行
V-508	正	吉田 夏樹	日本建築総合試験所	コンクリート下水管路の劣化調査 その2.管路内から採取したコアの分析
V-515	正	室野井 敏之	鹿島建設	シラン・シロキサン系表面含浸材を用いたコンクリートの積雪寒冷環境下における長期耐久性に関する研究
V-537	学	益田 紘孝	九州工業大学	鉄筋破断の生じたASR供試体のひび割れ状況
V-555	学	中溝 翔	岡山大学	モルタル小片試験体を用いた細骨材の耐凍害性の評価に関する研究
V-558	正	松尾 暢	中国電力	フライアッシュ洗浄技術によるコンクリートのワーカビリティ改善効果について
V-571	正	櫻庭 浩樹	土木研究所	コンクリート補修材料のX線CTによる内部観察
V-594	正	吉田 匠吾	清水建設	工期短縮に寄与する鋼板巻立て工法における速硬軽量無収縮グラウトの開発
V-616	学	藤村 将治	関西大学	粗骨材の混入がHPFRCCはりのせん断挙動に及ぼす影響に関する実験的研究
V-622	学	Lim Sopokhem	早稲田大学	Estimation of Flexural Post Cracking Behavior of SFRC Beams using X-ray Photograms
V-625	正	海野 貴裕	大林組	連続繊維補強材の使用に関する基礎的検討
V-631	学	岩井 雅紀	金沢工業大学	高温暴露が短繊維補強セメント系材料の力学的性質に及ぼす影響
V-634	正	川合 裕太	東日本旅客鉄道	高軸圧縮力を受ける高強度コンクリートを用いたRC柱の水平交番載荷実験
V-640	学	南里 卓洸	名古屋大学	初期ひび割れを有するコンクリートの圧縮強度・圧縮破壊エネルギーに関する実験的検討
V-646	学	伊佐治 優	名古屋大学	幾何学的非線形性を考慮した3次元RBSMによるコンクリートのせん断軟化・膨張挙動の評価
V-655	学	近藤 克紀	立命館大学	過鉄筋コンクリート中空断面部材の最大ねじり耐力の評価
VI-004	正	新名 恭仁	西日本旅客鉄道	MMS (Mobile Mapping System) の鉄道への適用に関する基礎技術の開発
VI-018	正	玉井 礼子	大林組	通電によるメガソーラー基礎杭の支持性能向上に関する実験的検討
VI-020	正	取違 剛	鹿島建設	RCD工法に用いる岩着コンクリートの開発 その(1)超硬練りコンクリートの配合に関する検討
VI-025	正	矢田 一也	土木研究所	CSGの引張破壊特性に関する検討(その4)
VI-058	正	川嶋 英介	奥村組	高耐久性カッタービットの開発(その1)-3Dプリンタを用いたカッタービット開発手法の研究-
VI-067	正	澤上 晋	大成建設	高強度耐火セグメントの実用化について ～耐火性能基礎試験～
VI-081	正	小野塚 直紘	清水建設	横浜環状北線馬場ランプシールドにおける線形確保対策
VI-090	正	牛垣 勝	鹿島建設	シールドトンネル地中接続部の開口補強構造について
VI-096	正	鈴木 友幸	鹿島建設	巨礫を含む砂礫層のシールド掘進実績
VI-122	正	橋爪 謙治	西日本高速道路エンジニアリング四国	画像解析によるトンネル照明灯の劣化予測手法の基礎的研究
VI-136	正	谷 賢俊	鉄道総合技術研究所	常時計測可能な指標を用いた単線河川橋梁橋脚の健全度診断手法
VI-145	正	布施 光弘	首都高技術	磁石式鋼橋点検装置の開発
VI-156	正	松井 俊吾	西日本高速道路エンジニアリング関西	デジタルカメラ点検システムの現場導入とその評価検証
VI-166	正	松永 嵩	原子燃料工業	ガードレール支柱の経年劣化検査技術の開発
VI-183	正	宇野 宏司	神戸市立工業高等専門学校	淡路島沿岸神社における南海トラフ地震の津波被災リスク
VI-197	正	本村 裕基	東海旅客鉄道	在来線線路内立入作業の安全度向上に向けた取組み -携帯型列車運転状況表示装置の改良-
VI-213	正	西藤 安隆	東日本旅客鉄道	劣化過程を考慮したライフサイクルコスト分析モデル構築に向けた一考察
VI-220	正	春田 健作	京都府	橋梁桁端部の劣化対策への取組み ～付着塩分量調査・桁端部洗浄～
VI-238	正	新井 健司	大成建設	大規模土工におけるCIMを活用した施工計画について
VI-251	学	高橋 佑莉沙	東京理科大学	GPS無線センサネットワークを用いた準静的変位モニタリングにおける高精度化
VI-262	学	杉浦 陽子	東京都市大学	薬液を用いた自立削孔技術の開発
VI-275	正	江口 輝行	大林組	張出し架設における工程短縮に向けた一方策 -東九州道大越川橋上部工-
VI-281	正	大野 剛	大成建設	生分解性法枠材を用いたのり面緑化実証試験
VI-286	正	齋藤 淳	安藤・間	フライアッシュおよび高炉スラグ微粉末を用いたローカーボンハイパフォーマンスコンクリートの施工事例
VI-294	正	山下 恭敬	西日本高速道路	トラス構造を有する橋梁の検査車に関する一考察
VI-305	正	鈴木 幸太郎	東日本旅客鉄道	アスファルト系材料によるスラブてん充層補修工法の開発
VI-314	正	中村 兆治	東日本旅客鉄道	ピボット支承を有する鉄道橋の橋脚傾斜対策
VI-321	正	古川 武英	東日本旅客鉄道	導水機能付きのトンネル剥落対策工法の検討(その1)
VI-334	学	土田 大嗣	長岡工業高等専門学校	日本とキルギス国におけるタブレット端末を用いた橋梁点検および調書閲覧システムの開発

講演番号	会員種別	講演者	所属	講演題目
VI-343	正	篠崎 真澄	東京地下鉄	全般検査結果を用いたベイジアンネットワークによる変状発生の因果関係の分析
VI-346	正	玉國 和広	国土交通省中国地方整備局	広島県における道路メンテナンス会議を通じた老朽化対策の取組み
VI-351	正	笹本 直之	中日本ハイウェイ・エンジニアリング東京	高速道路盛土の基礎地盤液状化時の安定性評価と対策工の試行検討
VI-357	正	大石 峻也	鹿島建設	鉱さい堆積場におけるレベル2地震時の液状化対策工の設計
VI-365	正	高瀬 裕也	飛鳥建設	物理探査法を用いた空港誘導路下における地盤改良効果の評価
VI-378	正	曾我部 直樹	鹿島建設	アジテータ車に設置したブローブによるコンクリートの連続管理技術の適用性
VI-386	正	田中 麻穂	前田建設工業	画像処理によるCSG材の粒度分布推定技術の開発
VI-397	正	福元 雄大	西日本旅客鉄道	横川駅構内における短時間間合でのホーム拡幅工事
VI-423	正	山本 智一	国土交通省中国地方整備局太田川河川事務所	2014広島土砂災害に伴う流木塵芥による高瀬堰ゲート全閉不能対応
VI-428	正	佐藤 彰洋	東京地下鉄	選奨土木遺産である銀座線新橋駅の改良計画
VI-448	正	君島 康太	東海旅客鉄道	東海道新幹線小田原駅構内速度向上への取組み
VI-471	正	庄野 真也	鉄道総合技術研究所	防食レール用レール締結装置構造の検討
VI-494	正	星 幸江	東京地下鉄	耐塩害性防振まくらぎの開発
VI-500	学	高橋 寛	新潟大学	振動軸力測定のためのレール締結部回転剛性の同定
VI-511	学	山本 紗穂里	横浜国立大学	模型実験による角折れ時の道床横抵抗力特性
VI-516	正	緒方 亮介	九州旅客鉄道	木まくらぎの焼損防止対策について
VI-536	正	土田 詩織	東日本旅客鉄道	RC鉄道橋におけるアルミニウム系流電陽極方式電気防食工法の適用事例
VI-560	正	小林 昂樹	東鉄工業	新幹線トンネル耐震工事の施工技術
VI-571	正	堤内 隆広	大林組	地震時早期復旧シナリオの有効性の検討
VI-576	正	天野 和信	東日本旅客鉄道	鉄道乗降場における基礎形式選定の検討
VI-583	正	大澤 英里	東日本旅客鉄道	総武緩行・快速線間における路盤陥没発生メカニズムの考察
VI-588	正	山本 和範	前田建設工業	地下水路構造物へのあと施工せん断補強工法の適用
VI-600	正	占部 昇芳	清水建設	陸前高田市震災復興事業の一体的業務による事業促進(その1) 仮設吊橋及びベルトコンベヤ高架部の設計・施工
VI-617	正	近江 健吾	清水建設	長大切土のり面の地すべり対策工と超高压電線近接作業における安全対策
VI-632	正	平石 剛紀	鹿島建設	武蔵水路改築におけるサイホン耐震補強工事(PIP工法の適用)
VI-637	正	石橋 靖亨	鹿島建設	設計基準強度40N/mm ² 、スランプ8cmのコンクリートの運搬方法に関する一実験
VI-663	正	吉田 健一	大林組	立坑・横坑を利用した小水力発電施設の建設について
VI-676	正	中谷 匡志	安藤・間	山岳トンネルにおける掘削発破を利用した切羽前方探査の適用事例
VI-684	正	藤岡 大輔	大林組	簡易な孔内カメラを用いたノンコア削孔切羽前方探査の高精度化
VI-689	正	横田 泰宏	鹿島建設	山岳トンネル切羽変状監視システムの現場適用事例
VI-694	正	坂井 陽一	九鉄工業	国道直下における岩盤内の鉄道トンネル立体交差工法
VI-732	正	関口 雄介	北海道電力	LNG貯槽の基礎部鋼管杭打設時の振動特性について
VI-748	正	西村 友宏	大林組	非火薬破砕剤を使用した硬岩地山のトンネル掘削事例
VI-755	正	辰巳 順一	安藤・間	排気ガスを利用した生コン車洗浄水の中和処理に関する試み
VI-758	正	中島 穰	清水建設	長距離TBMトンネル施工での前方探査 —マレーシア パハン・セランゴール導水トンネル—
VI-767	正	石黒 聡	清水建設	泥岩と未固結堆積物からなる小土被り低強度地山の早期閉合トンネル挙動
VI-784	正	菊地 晃徳	前田建設工業	栗子トンネル換気坑における車両搭載型測定機を用いた掘削断面形状測定
VI-785	正	青木 峻二	大林組	地盤改良を用いた斜め自立土留め工法の試験施工事例
VII-002	学	段下 剛志	長岡技術科学大学	ステップ流入式DHSリアクターによるメタン発酵脱水ろ液の部分硝化の試み
VII-009	学	根本 笙	長岡技術科学大学	嫌氣的メタン酸化脱窒微生物の集積培養と脱窒活性に与える基質組成の影響
VII-016	学	惣中英章	呉工業高等専門学校	下降流懸垂型スポンジリアクターを用いた高濃度アンモニア含有廃水のストリッピング処理
VII-020	正	南 修司	石垣	微細珪砂を用いた凝集+砂ろ過法に関する基礎的研究
VII-029	学	副田 正樹	大阪工業大学	微細藻類Chlorella vulgarisを用いた人工排水中の窒素・リン連続処理に関する研究
VII-031	正	高浪 龍平	大阪産業大学	2014/15年インフルエンザシーズンにおける河川中のタミフルおよびタミフル代謝物濃度について
VII-045	正	伊豫岡 宏樹	福岡大学	UAV-SfM手法を用いた干潟地形変化の把握
VII-052	正	林 まゆ	前田建設工業	小規模な閉鎖性水域における礫間接触酸化槽と植生浮島の適用事例
VII-057	正	奥岡 桂次郎	名古屋大学	都市階層モデルを用いた都市圏の低物質・低炭素化に関する研究
VII-067	学	工藤 正智	大阪大学	セメント硬化体の細孔径分布とヨウ化セシウム溶液の拡散透過性の関係
VII-084	学	内藤 克貴	早稲田大学	水素および酸素を注入する地下水の原位置独立栄養脱窒法の数学モデルに関する研究
VII-092	正	河村 大樹	熊谷組	油汚染土壌バイオフィル処理における効果的な酸素供給方法の解析的検討
VII-113	正	伊東 英幸	日本大学	途上国の地方都市を対象とした都市化による生態系サービスの影響評価に関する基礎的研究 —タイ・コンケン市を対象として—
CSI-005	学	植前 成美	和歌山工業高等専門学校	RPGによる防災教育教材の開発とその効果について

講演番号	会員種別	講演者	所属	講演題目
CS1-014	正	御船 博士	岡山県立岡山工業高等学校	地域貢献活動を通じた技術者倫理の育成
CS2-006	学	トゥラン ティ スン タン	横浜国立大学	DETAILED SENSITIVITY ANALYSIS OF NUMERICAL MODEL OF AN EXISTING BASE-ISOLATED BUILDING
CS2-010	学	楊 沐野	九州大学	Analytical investigation for Fatigue Cracking from Weld Roots between Deck Plate and U-rib in Orthotropic Steel Decks
CS2-016	学	Manee Donpapob	京都大学	Climate Change impact on reservoir water availability in THAILAND
CS2-041	正	張 凱淳	京都大学	Applicability of Acoustic Emission Method to Damage Evaluation for RC Decks: A Fundamentally Experimental Verification
CS2-047	学	趙 博宇	東京大学	複数観測量に基づく車両応答型路面プロファイル推定手法の開発
CS2-051	学	ダニエル ハウ スナー	東京大学	An analysis of challenges in international construction projects - A practitioners' perspective
CS3-009	正	植田 祐司	法政大学	微小骨材が鋼コンクリート境界面付着メカニズムに及ぼす影響の検討
CS3-013	正	阿部 淳一	北武コンサルタント	SRC部材の破壊メカニズムの検討のための基礎的検討
CS3-026	学	渡邊 涼	大阪工業大学	鋼・コンクリート二重合成I桁橋の経時挙動に関する研究
CS3-029	学	Nguyen Minh Hai	宇都宮大学	直接せん断試験によるスタッドの軸部せん断破壊耐力の検討
CS3-036	正	西岡 英俊	鉄道総合技術研究所	組合せ荷重を受けるシートパイル基礎の接合部に関する模型実験（その1：実験概要と標準ケースの結果）
CS4-020	正	福田 雅人	西日本高速道路	維持管理性向上に配慮した鉄道と交差するエクストラードード橋の設計
CS5-005	正	西田 貢士郎	中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋	大規模浸水に対する地下鉄の危険度評価の試み
CS5-012	正	平塚 裕介	大成建設	非定常法における水—超臨界CO ₂ 系の相対浸透率測定における逆解析解の妥当性評価
CS6-005	正	濱木 道大	開発工営社	常呂川水系無加川における軟岩侵食を考慮した河床変動計算
CS8-002	学	鳥生 大祐	京都大学	多数の津波漂流物輸送と衝突防止工の効果に関する大規模並列計算
CS8-019	正	古川 陽	東京工業大学	周波数領域境界要素法を用いた異方性飽和多孔質弾性体の3次元波動散乱解析
CS8-026	学	吉町 徹	中央大学	波動音響解析における擬似インパルス応答解析手法の妥当性の検証
CS10-006	正	渡邊 晋也	日本建設機械施工協会	コンクリート床版内部に発生した水平ひび割れの微破壊調査方法
CS12-015	正	磯 さち恵	大成建設	Ca型ベントナイト混合土の長期状態設定における変形挙動と透水係数（その2）—せん断透水試験における拘束圧条件による比較・検討—
CS12-020	正	工藤 淳	日本原燃	ベントナイト混合土に使用する砂の違いが透水係数に与える影響
CS12-030	正	田原 康博	地圏環境テクノロジー	TRU廃棄物処分におけるガス移行連成挙動評価手法の開発（その5）—ガス移行挙動解析手法の高度化—

6. 研究討論会

研究討論会は、大会初日および3日目の午後の学術講演会終了後に開催した。テーマ数は、初日が17件で、3日目が13件の合計30件である。インフラの維持管理、防災・減災、技術者教育等、多岐にわたる内容に関して現状と課題、将来展望の討論が行なわれた。各テーマに対する入場者数は表4に示すとおりである。今年度より、研究討論会の概要は全て、全国大会実行委員会のホームページにおいて事前に周知を行った。また、会場をテーマと関連する年次学術講演会会場付近に配置し、参加者の移動の負担軽減を図った。

（学術部会年次講演WG副査 近森秀高）



写真8 研究討論会（研06、我が国の橋梁の維持・管理を考える—現状と問題点、将来展望—、9月16日）

表4 研究討論会のテーマと入場者数

9月16日開催

番号	テーマ	入場者数
研01	多様化する途上国援助－日本の環境工学はどう貢献できるか	41
研02	CIMの最新動向：米・欧の状況、日本の状況とこれから	115
研03	「若手土木技術者による学会活動活性化と交流促進」の展望	56
研04	橋の耐震設計のゆくえ－機能性・経済性・安全性のバランスと役割－	117
研05	V&Vのススメ：土木分野における数値解析の課題	115
研06	我が国の橋梁の維持・管理を考える－現状と問題点、将来展望－	250
研09	水理水文解析のための汎用プラットフォームによる水工技術の社会実装	64
研11	「市民参加型防災まちづくりハンドブック」からの展開	11
研12	地域のインフラメンテナンスにおけるNPO等サードセクターの役割	17
研13	技術者にとっての生涯学習、その必要性と支援制度	25
研15	東北地方太平洋沖地震津波を踏まえた津波評価技術	65
研18	地下空間における災害時のリスク軽減と空間活用	44
研19	鋼橋の点検・診断資格の課題と展望	64
研20	国際貢献のための大学連携を考える	14
研22	国際センター主催 特別討論会 「元留学生が語る、日本土木への注文」	42
研23	災害に対する強靱な社会づくりとそれを支える安全教育	23
研25	2020年以降も社会に貢献し続ける次世代型コンクリート工学を目指して	106

9月18日開催

番号	テーマ	入場者数
研07	維持更新時代における舗装の診断技術 ～舗装の健康診断～	42
研08	学部卒と修士卒のキャリアパスの相違 －社会に役立つ土木工学教育を目指して－	11
研10	待ったなし！土木界のダイバーシティ&インクルージョン	9
研14	土木界の新しい広報体制－土木広報センターの役割－	16
研16	維持管理を変える ～点検依存からの脱却と構造性能評価の実現に向けて～	101
研17	日本の豊かな国土形成に向けて ～その担い手である建設業の活性化・進化のために～	208
研21	ロボット技術の最新動向と当委員会の役割～建設用ロボット委員会の新体制～	33
研24	頻発する土砂災害の減災に向けて～発生メカニズムと社会的対応	40
研26	復興と土木：対話できる社会基盤と新たな国土デザインを考える	12
研27	放射性汚染廃棄物対策技術の現状と今後～土木技術の役割と貢献～	37
研28	土木における木材利用400万m ³ を目指して	19
研29	土木学会東日本大震災アーカイブサイトの今後の展開(その2)－アーカイブ映像の具体的利用を考える－	21
研30	社会インフラメンテナンスの人材育成を考える－技術者の育成と課題－	40

7. 交流会

交流会は、9月17日(木)18:10から岡山プラザホテルにおいて開催された。600名を超える参加者となり、広い会場が手狭に見える状況であった(写真9)。

開催に先立ち、17時50分から交流会参加者が交流会場に入場するのを見計らって、岡山の郷土芸能である備中神楽が、備中神楽成羽保存会の方々によって披露された。大国主命

が、大蛇退治をする場面が演じられ、勇壮な演技に多くの参加者が魅了された。約20分の余興が終わり、会場が落ち着いたところで、廣瀬典昭土木学会会長の主催者挨拶によって交流会を開始した。最初に、伊原本隆太岡山県知事、大森雅夫岡山市長、森田潔岡山大学長から、それぞれ来賓挨拶を賜った。この後、元土木学会長で、岡山大学名誉教授である阪田



写真9 交流会の様子

憲次氏の乾杯の発声により歓談が始まり、岡山の地元の食材を使った料理や地酒、地ビールが振る舞われた。

開始から50分ほど経過し、歓談も盛り上がってきたところで、国際関連行事に参加された海外からの参加者の紹介がなされた。続いて、海外からの参加者と来賓にご登壇頂き、

鏡割りが行われた。会場から「よいしょ、よいしょ、よいしょ」のかけ声がかかり、非常に盛り上がった雰囲気が演出された。また、鏡割りで用いた升は海外からの参加者にプレゼントされ、好評であった。歓談中、国土交通省中国地方整備局池田裕二氏より、9月13日に開催された土木学会プレイベント「おかやま NEXT100年コンテスト」の報告がなされた。

その後、歓談時間が過ぎ、交流会も宴たけなわになった19時50分頃、土木学会会員有志による和太鼓の演奏が披露された。迫力満点の音が響き、参加者の注目が一気に壇上の演奏に引き寄せられた。5分程度の演奏の後に、来賓の中島正愛日本建築学会会長から挨拶を頂き、続いて、来年度開催地を代表して、東北支部幹事長である鈴木研司氏から挨拶がなされ、仙台での再会が呼びかけられた。最後に、全国大会実行委員長丸山隆英氏の閉会挨拶があり、20時10分にお開きとなった。(総務部企画WG 西村伸一)

8. 国際関連行事

国際センターが担当して実施した今年の全国大会国際関連行事は、「元留学生が語る、日本土木への注文」と題する特別討論会、廣瀬会長提案の「ビッグデータ時代の社会資本の整備—持続可能な社会を目指して」と題する国際ラウンドテーブルミーティングに加え、17回目を迎えたインターナショナルサマーシンポジウム(国際セッション)、創立100周年事業の一環として始まった国際若手技術者ワークショップ、恒例のネットワーキングレセプションおよびテクニカルツアーである。

特別討論会では、大内雅博氏(高知工科大学教授)が司

会を務め、幅広い年齢層の元留学生10名が自らの経験を踏まえ日本土木に対する硬軟入り混ぜた注文を日本語で寄せた。跳び越えなければならぬハードルの自覚、柔軟な思考、プロフェッショナルエンジニアであることの重要性など貴重な意見を多数いただいた。

国際ラウンドテーブルミーティングでは、小池俊雄教授(ICHARMセンター長)がモデレータ役を務め、喜連川優教授(国立情報学研究所所長)が「ビッグデータの現状と将来展望」と題する基調講演を行った後、ASCE、CICHE、JSCE、KSCE、PICE、JSCEタイ分会、同トルコ分会から各国におけるビッグデータ利用の現状および課題に関する報告があり、議論を行った。開催にあたり、土木計画学研究委員会および土木情報学委員会に協力・支援をいただき、また、学会の公益増進資金の助成を得て同時通訳を導入した。今後、今回の議論を冊子に取りまとめ活用いただく予定である。

サマーシンポジウムでは、公益信託土木学会学術交流基金の助成により来日したStudy Tour Grant参加者5名を含む計56名の論文発表があった。各セッションとも発表者の



写真10 国際ラウンドテーブルミーティングでの講演者

みならず多くの留学生が参加した。また若手技術者ワークショップには日本に留学中の24名がなぜ日本を留学先として選んだのかについて活発な議論を行い、交流を深めた。

初日の夜には、(公社)おかやま観光コンベンション協会のご協力もあり、「岡山城天守閣」においてネットワーキングレセプションを開催した。海外ゲストを含め約80名の参加があった。地酒や地ビールの提供もあり、和やかな雰囲気のもと、国際交流を深めることができた。海外からの参加者には、2日目の交流会にも出席いただいた。各代表者には舞台での鏡開きにも参加いただき、日本のおもてなしの一端を味わっていただいた。

テクニカルツアーでは、貸切バスで鉄道・道路併用橋の瀬戸大橋を往復し、途中、瀬戸大橋記念館(坂出市)、与島PA、倉敷美観地区に立ち寄った。車中にて工事中の記録映画をDVD上映し、特に瀬戸大橋記念館では27年前に完成したビッグプロジェクトにまつわる話を建設に携わった方か

ら聞くことができた。

(土木学会国際センター 片山功三、上田多門)

【全体概要】

期 間：平成27年9月16日(水)～17日(木)

会 場：岡山大学津島キャンパス自然科学研究科棟ほか
海外からの参加：

台湾、韓国、タイ、トルコ、ベトナムの5海外分会、ASCE、CICHE、KSCE、MACE、PICEの5団体、計8ヶ国・地域、計26名(サマーシンポジウム等の参加者除く)

【プログラム】

(1) 特別討論会

タイトル：「元留学生が語る、日本土木への注文」

日時：9月16日10:20～12:20、参加者数：42名

(2) 国際ラウンドテーブルミーティング

(International Roundtable Meeting)

タイトル：“Leveraging Big Data for Infrastructure Management and Sustainable Development” 「ビッグデータ時代の社会資本の整備—持続可能な社会を目指して」

日時：9月16日13:30～17:00

参加者数：79名

(3) The 17th International Summer Symposium (国際セッション)

日時：9月16日9:00～12:00、9月17日9:00～12:00

論文数：56編

(4) 国際若手技術者ワークショップ

テーマ：“Why did You come to Japan?”

日時：9月16日13:30～17:30

参加者数：24名

(5) ネットワーキングレセプション

日時：9月16日18:00～20:00

場所：岡山城天守閣

参加者数：76名

(6) テクニカルツアー

訪問先：瀬戸大橋記念館、与島PA、倉敷美観地区

日時：9月17日11:00～16:30

参加者：26名



写真11 若手技術者ワークショップの様子

9. 映画会

土木技術映像委員会では、2007(平成19)年広島大会から連続して全国大会での「映画会」を企画・開催している。当委員会では土木技術映像の収集・調査・評価と土木図書館映像ライブラリーへの蓄積・公開とともに、「土木技術映像を通じて土木の理解を深める」広報活動の一環として、2001(平成13)年度から四ツ谷土木学会会館での定期上映会「土木学会イブニングシアター」を86回、その他市民向け特別上映会などを随時開催している。全国大会映画

会はこの活動の一環として位置づけ、今年度は、上述の土木学会イブニングシアターで人気が高い作品や、「岡山&瀬戸大橋特集」、「北陸を祝って新幹線特集&海外プロジェクト」を企画し上映した。作品リストは表5に示すとおりである。

参加者数は初日(午後のみ)が124名、2日目(午前のみ)が52名、3日目(午前・午後)が85名で3日間の合計は261名と、多くの方々に足を運んで頂いた。当委員会では上映に

対する要望や意見を今後の運営に反映させるためアンケートをwebからお願いしているが、1割近くの方から回答が寄せられ、「これからは是非続けて頂きたい」、「3日間とも上映しているのが良い」、「もっと頻度を増やして、全国展開してほしい」などの意見が寄せられた。大会終了後には、研修や授業での利用のための映像資料の問合せも増えている。引き続き次年度以降も継続して開催したい。

(土木技術映像委員会幹事長 平野隆)



写真12 映画会の様子

表5 上映作品リスト

作品名	制作年	上映時間
■イブニングシアターファンが選んだベスト3		
1. 富士山を測る	1994	25分
2. 北越北線鍋立山トンネル工事—超膨張性地山との戦いの記録—	1996	31分
3. 青函トンネル	1985	47分
4. 佐久間ダム総集編	1958	96分
■岡山 & 瀬戸大橋特集		
5. より良いアクセスのために 川辺橋東詰交差点改良事業の記録	2002	24分
6. 地下岩盤に築く 一倉敷国家石油ガス備蓄基地水封式地下岩盤貯槽建設の記録—	2013	23分
7. 環境と景観 一来島海峡大橋の建設—	1985	30分
8. 本州四国連絡橋南北備讃瀬戸大橋 7A 長大橋の基礎を築く 第三部	1983	37分
■北陸を祝って新幹線特集 & 海外プロジェクト		
9. 輝くあおもり 東北新幹線八戸・青森間	2005	18分
10. 山陽新幹線岩鼻 PC トラス	1974	32分
11. 東北新幹線第2・第3阿武隈川橋りょう建設の記録	1976	28分
12. 黎明のキリマンジャロ ロアモン農業開発工事の記録	1987	50分
13. 干ばつの大地に用水路を拓く—アフガン治水技術7年の記録—	2012	72分
14. ポスボラス海峡横断鉄道トンネル—海底をわたる風—	2012	33分
15. パッテンライ!!	2008	90分

10. アンサンブルシヴィル

土木学会弦楽合奏団アンサンブルシヴィルによる演奏は、大会2日目の9月17日(木)に第1部と第2部に分けて行われた。



写真13 アンサンブルシヴィルによる演奏

第1部は基調講演に先立ち、13時より岡山プラザホテル「鶴鳴の間」で行われた。アンサンブルシヴィルリーダーである大橋康廣氏からの挨拶の後、演奏に移った。はじめにモーツァルトの「ディヴェルティメント ニ長調 K.136」、その後、ブリテンの「シンプルシンフォニー Op.4」が演奏され、最後に「G線上のアリア」として知られるバッハの「管弦楽組曲第3番 BWV1068 第2楽章」が演奏された。11人による上品かつ温かみのある演奏で観客を魅了し、演奏終了後は会場から盛大な拍手が送られた。

その後、会場を岡山シティミュージアムへと移し、第2部の演奏が行われた。同時期に開催されていた「土木コレクション2015 in岡山」の見学に訪れていた来場者も足を止め、

アンサンブルシヴィルの演奏を鑑賞される光景も見られた。ここではチャイコフスキーの「弦楽セレナーデ」やモーツァ

ルトの「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」などが演奏された。
(総務部会企画WG 珠玖隆行)

11. 土木コレクション

土木コレクション2015「HANDS + EYES」を、土木の日実行委員会土木コレクション小委員会と全国大会実行委員会の主催で、9月16日から20日までの5日間、岡山駅西口向かいの岡山シティミュージアム4階企画展示室で開催した。今回はHANDS 40点、EYES 12点の計52点、64枚のパネルをテーマごとに展示した。また、併設事業として、「絵図・図面にみる近世・近代の岡山」を同時開催した。岡山の土木事業に関わる設計図などオリジナルの資料46点、写真なども含め計100点を展示し、原図ならではの迫力を伝えることができた。一般の来場者からも「土木の力強さ、美しさに感心した」、「手書きとは思えない。先人の熱い思いが伝わって

きた」、「これまでのイメージが一新した」という感想を頂いた。
(総務部会企画WG 樋口輝久)



写真14 展示会場の様子

12. 支部特別企画

「地域の安全・安心に向けた新たなる第一歩 ～広島土砂災害を教訓に～」

大会初日の10時より岡山大学創立五十周年記念館金光ホールにて、大会テーマである「地域とともに確かな未来を築く」ためのメッセージを伝える支部特別企画として「地域の安全・安心に向けた新たなる第一歩～広島土砂災害を教訓に～」と題した報告会およびパネルディスカッションが実施された。まず全国大会実行委員会副委員長の岡山大学前野詩朗氏の挨拶で始まり、次に国土交通省中国地方整備局河川部長渡邊泰也氏による「2014年広島土砂災害の概要と中国地方整備局の取り組み」についての報告があり、引き続き広島土砂災害の報告書をまとめたメンバーを中心に、それぞれのテーマに基づくパネルディスカッションが行われた。登壇者と討論のテーマは次のとおり：「災害をもたらした豪雨の特徴と今後の課題」広島工業大学田中健路氏、「警戒区域指定及び雨量に基づいた警戒・避難システムの検証と課題」広島大学土田孝氏、「過去の土砂災害との比較と豪雨に対応した新たな雨量

指標」呉工業高等専門学校森脇武夫氏、「都市計画の観点から見た2014年広島災害」広島大学藤原章正氏、「土砂災害の災害履歴の調査技術と防災対策への適用可能性」山口大学鈴木素之氏。最後に土田孝氏の座長による70名の来場者を交えた活発な討議を実施して閉幕した。
(学術部会特別講演WG主査 西山哲)



写真15 来場者を交えた討議の状況

13. 見学会

見学会は表6のとおり、初日の9月16日と3日目の9月18日の2日間にコース①～③を実施した。

コース①は、普段は入れない瀬戸大橋の橋台、トラス桁内の管理用通路を通り、海面から175mの主塔の塔頂まで見学した。事前申し込みから人気が高く、16日と18日の2回にわたり実施し、瀬戸大橋の建設・保全技術と瀬戸内海の雄大なパノラマ風景を堪能した。

コース②は、高梁川河口に建設中の水島港水島玉島地区

臨港道路をボートに乗船して海上から視察した。その後、高梁川上流の酒津公園に移動して公園内の排水樋門などを見学するとともに、洪水被害の緩和を目的に行われる小田川・高梁川合流点の付け替え工事の計画について説明を受けた。

コース③は、津田永忠が旭川から百間川を分流する際に築いた江戸時代の分流堰を見学するとともに、百間川河口に増築された国内最大のライジングセクターゲート方式の水門を見学した。
(総務部企画WG 比江島慎二)

表6 見学会の各コースの概要

コース	開催日	コース名	見学先	参加者数
①	9月16日	瀬戸中央自動車道「瀬戸大橋」一吊橋主塔の塔頂体験一	瀬戸大橋主塔	35
	9月18日			33
②	9月16日	小田川合流点治水工事、酒津公園と水島港水島玉島地区臨港道路	水島港水島玉島地区臨港道路 酒津公園	23
③	9月18日	百間川分流堰と河口水門の視察	百間川分流部 百間川河口水門	12

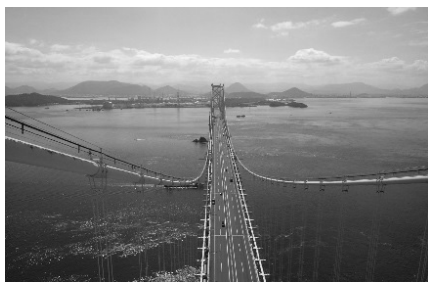


写真16 瀬戸大橋塔頂からの眺め



写真17 瀬戸大橋塔頂の様子



写真18 ボートでの海上見学



写真19 酒津公園樋門



写真20 百間川分流堰



写真21 百間川河口水門

14. パネル展示

パネル展示は、3日間を通して、岡山大学創立五十周年記念館の大中小会議室で開催した。展示内容は、大きく分け

て、土木学会100周年記念式典での特別展示の内容である「土木と文明」、特別講演会の内容と関連し、江戸時代の土木



写真22 パネル展示の様子

工事で開催地岡山の基礎を築いた津田永忠の業績を紹介した「津田永忠と岡山の土木遺産」、中国地方各地の選奨土木遺産を紹介した「選奨土木遺産写真展」、そして「中国地方で進められている各種プロジェクト」の4つで構成し、各コー



写真23 パネル展示の様子

ナー合わせて、125点の展示を行った。来場者は、3日間で延べ351名となっており、多くの学会参加者に、パネル展示を見て頂けた。

(総務部企画WG副査 橋本成仁)

15. ももちゃり

岡山市で実施しているコミュニティサイクルであり、全国で最も回転率が高い(利用されている)として注目されている「ももちゃり」。岡山大学キャンパス内にももちゃりのブースを設置し、来場者にPRした。これは、開催地である岡山市の施策を学会参加者に紹介することを目的に実施したものであるが、簡単な登録で利用が可能であるため、岡山駅・岡山大学津島キャンパス間やキャンパス内の移動手段としての活用も意図している。

キャンパス内にサイクルポートが4か所開設されたこともあり、期間中には多くの学会参加者に関心を持って頂き、また、利用して頂いたようである。このことは、土木学会開催日を除く、岡山大学での1日平均利用台数が約30台であるのに対し、学会初日と2日目の午前中が雨であったにもかかわらず



写真24 ももちゃり

らず、学会開催期間の3日間での貸出数が300台という利用の多さにも表れている。気候が温暖で、起伏の少ない平坦な地形が多い岡山市が精力的に進めている自転車政策の一端を体験して頂けたと思われる。

(総務部企画WG副査 橋本成仁)

16. おかやまNEXT100年コンテスト

全国大会のプレイベントであるおかやまNEXT100年コンテストは、9月13日(日)に岡山市立市民文化ホールで開催さ

れた。コンテストでは、岡山県内の小学校5・6年生、中学生、高校生13組が、100年後の「自分たちの住むまち」をテーマと



写真25 コンテスト発表会の様子

したイラスト・作文作品について発表を行い、小学生（5・6年生）部門及び中学生・高校生部門ごとに、最優秀賞、優秀賞及びアイデア賞を選考し、表彰を行った。

コンテストのほか、女性技術者によるトークセッションを



写真26 表彰式後の記念撮影

開催し、土木の役割や魅力を発信するとともに、橋梁模型等の体験コーナーを設置し、来場者（約100名）に土木技術を体感して頂く取り組みも行った。

（総務部会企画WG副査 藤原年生）

17. 一時保育

大会期間中、子供を同伴する参加者のために、大会ホームページで一時保育の案内を行い、最終日に1名の申込みがあった。なお、今大会では会場内に託児所を設置せず、岡山大学に近接している保育園に依頼した。

一時保育を希望した方には、直接、詳細をご連絡する形とし、実行委員会では保育園への取次ぎを行った。利用料時間は午前8時半から夕方5時まで、利用料（おやつ代を含む）は3歳未満が1日2,500円、3歳以上は2,000円であり、利用

料は申込み者の負担とした。その代り、実行委員会の担当者が当日宿泊場所に出向き、タクシーを利用して保育園まで送迎した。

利用者からは、「出迎えを頂けるサービスは初めてで、朝の混雑する時間であったため、移動に不安があったが、スムーズに預ける事が出来たので有難かった。」とのご意見を頂いた。

（総務部会総務WG副査 小松満）

18. 実行委員会組織図

全国大会実行委員会は、国土交通省中国地方整備局長丸山隆英氏を実行委員長とし、常任委員会、幹事会、学術部会および総務部会で組織をした。平成25年11月28日に第1回全国大会準備委員会を開催し、実行委員会の組織および準備のスケジュールを確認した。平成26年5月22日に常任委員会と幹事会からなる拡大常任委員会を開催し、各部会および

WGの役割を確認し、平成26年11月27日の第2回拡大常任委員会で予算およびキャッチフレーズを決定した。

幹事会、年次講演WG、特別講演WG、総務WG、経理WGおよび企画WGの開催回数は、それぞれ、11回（拡大幹事会を含む）、6回、4回、12回、4回および9回であった。

（総務部会総務WG副査 小松満）

河原能久 (広島大学教授)	相藤位	松原雄平 (鳥取大学教授)
西垣 誠 (岡山大学特任教授)		馬場俊介 (岡山大学名誉教授)
常任委員会		
実行委員長: 丸山隆英(中国地方整備局局長)	副委員長: 前野清朗(岡山大学教授)	
幹事長: 綾野克紀(岡山大学教授)		
総務部会長: 野田 勝(中国地方整備局企画部長) 学術部会長: 阿部宏史(岡山大学副学長)		
委員:		
西村 強 (鳥取大学教授)	山崎藤司 (岡山市都市整備局長)	
藤井 堅 (広島大学教授)	京極靖司 (西日本高速道路中国支店改築事業部長)	
兵動正幸 (山口大学教授)	山田和彦 (JB本四高速運上りかみみ尾道管理センター所長)	
熊本直樹 (広島工業大学教授)	磯貝太郎 (JR西日本広島支店副支社長)	
森脇英夫 (呉工業高等専門学校教授)	吉岡一郎 (中国電力土木部長)	
高田龍一 (松江工業高等専門学校教授)	野瀬吉正 (清水建設広島支店副支社長)	
原 隆 (徳山工業高等専門学校教授)	小松 透 (大林組広島支店副支社長)	
梅野修一 (中国地方整備局港湾空港部長)	末岡光彦 (中電技術コンサルタント社長)	
三村富士男 (岡山県土木部長)	小谷裕司 (エイト日本技術開発社社長)	

幹事会		
幹事長: 綾野克紀 (岡山大学教授)		
総務部会長: 野田 勝 (中国地方整備局企画部長)		
総務WG主査: 出路康夫 (中国地方整備局技術企画官)		
副査: 光田洋一 (大木組土木本部工務部部長)		
副査: 小松 満 (岡山大学教授)		
総務WG主査: 潮見幸司 (中国地方整備局企画課長補佐)		
副査: 川上 浩 (エイト日本技術開発広島支店長)		
副査: 吉田圭介 (岡山大学教授)		
企画WG主査: 津津知弘 (中国地方整備局企画課長)		
副査: 藤原年生 (中国地方整備局建設専門官)		
副査: 桐野賢二 (岡山市都市整備局審議監)		
副査: 舞原一郎 (ウエスコ岡山支社長)		
副査: 橋本成仁 (岡山大学教授)		
学術部会長: 阿部宏史 (岡山大学副学長)		
特別講演WG主査: 西山 哲 (岡山大学教授)		
副査: 田尾和也 (中国地方整備局環境調整官)		
副査: 森下尊久 (JB本四高速岡山管理センター副所長)		
副査: 木本和志 (岡山大学教授)		
年次講演WG主査: 大久保賢治 (岡山大学教授)		
副査: 近藤秀高 (岡山大学教授)		
副査: 清広雅史 (岡山県技術管理課長)		
副査: 藤井隆史 (岡山大学教授)		

監査役	丸山昭義 (大成建設中国支店総務部長)
事務局	赤畑夕佳 (中国支店事務員)

総務部会長: 野田 勝(中国地方整備局企画部長)	総務WG
主査: 出路康夫(中国地方整備局技術企画官)	副査: 光田洋一(大木組土木本部工務部部長)
副査: 小松 満(岡山大学教授)	副査: 小松 満(岡山大学教授)
調整担当: 全体のとりまとめ、全体計画作成、全国大会委員会との連絡	
出路康夫(中国地方整備局技術企画官)、光田洋一(大木組土木本部工務部部長)、小松 満(岡山大学教授)	
調整担当: 学会誌編纂作成、ホームページ作成	
藤原健史(岡山大学教授)、藤井隆史(岡山大学教授)、中村公一(鳥取大学教授)	
調整担当: 受付、案内、危機管理、アルバイト雇用	
末本浩二(中国地方整備局海洋環境技術課長)、氏原岳人(岡山大学助教)、細田英樹(西日本高速道路企画課課長)、大西啓二(JR西日本施設課長)、高橋啓介(清水建設広島支店岡山営業所営業課長)	
総務WG	
主査: 潮見幸司(中国地方整備局企画課長補佐)	副査: 川上 浩(エイト日本技術開発広島支店長)
副査: 吉田圭介(岡山大学教授)	副査: 吉田圭介(岡山大学教授)
会計担当: 予算書、決算書作成	
潮見幸司(中国地方整備局企画課長補佐)、川上 浩(エイト日本技術開発広島支店長)、吉田圭介(岡山大学教授)	
出納担当: 支払い、会計	
藤野 実(中国地方整備局企画課施設策分析評価係長)、西 生郎(エイト日本技術開発管理課課長)、松井廣弘(岡山大学教授)	
企画WG	
主査: 津津知弘(中国地方整備局企画課長)	副査: 藤原年生(中国地方整備局建設専門官)
副査: 桐野賢二(岡山市都市整備局審議監)	副査: 舞原一郎(ウエスコ岡山支社長)
副査: 橋本成仁(岡山大学教授)	副査: 橋本成仁(岡山大学教授)
交流会担当: 交流会、アンソングルヴィル	
津津知弘(中国地方整備局企画課長)、桐野賢二(岡山市都市整備局審議監)、橋本成仁(岡山大学教授)、末本浩二(中国地方整備局建設専門官)	
交流会担当: 交流会、アンソングルヴィル	
西村伸一(岡山大学教授)、橋本成仁(岡山大学教授)、珠玖隆行(岡山大学助教)、入江 彰(中国電力流通事業本部工本計画担当マネージャー)、舞原一郎(ウエスコ岡山支社長)、相葉洋一(大木組土木本部設計部設計課長)	
ハナレハナレ展示担当: ハナレハナレ展示、映画会、皇学会	
橋本成仁(岡山大学教授)、比江島健二(岡山大学教授)、珠玖隆行(岡山大学助教)、渡河川村(岡山県河川防災室)、谷村圭史(大林組広島支店営業第2部副部長)、川井俊介(大成建設中国支店営業部課長)、平岩直樹(複建調査設計主任エンジニア)	
土コレクショ担当: 土コレクショ	
緒口隆久(岡山大学教授)、齋藤元康(岡山県技術管理課参事)、伊藤努(西日本高速道路企画課課長補佐)	
国際関係行事担当: ハナレハナレカクショ、シンポジウム	
竹下祐二(岡山大学教授)、岩田 徹(岡山大学教授)、金 兼米(岡山大学助教)	

学術部会長: 阿部宏史(岡山大学副学長)	特別講演WG
主査: 西山 哲(岡山大学教授)	副査: 田尾和也(中国地方整備局環境調整官)
副査: 田尾和也(中国地方整備局環境調整官)	副査: 森下尊久(JB本四高速岡山管理センター副所長)
副査: 森下尊久(JB本四高速岡山管理センター副所長)	副査: 木本和志(岡山大学教授)
副査: 木本和志(岡山大学教授)	副査: 大久保賢治(岡山大学教授)
副査: 大久保賢治(岡山大学教授)	副査: 近藤秀高(岡山大学教授)
副査: 近藤秀高(岡山大学教授)	副査: 清広雅史(岡山県技術管理課長)
副査: 清広雅史(岡山県技術管理課長)	副査: 藤井隆史(岡山大学教授)
会場設置、アルバイト配置、プログラム編成会議参加等	
第1部門: 木本和志(岡山大学教授)、馬場康成(アサヒ工業技術開発部技術課課長代理)	
第2部門: 吉田圭介(岡山大学教授)、桐川昭信(三井住友建設岡山営業所長)	
第3部門: 金 兼米(岡山大学助教)、大田拓郎(大林組広島支店岡山営業所副課長)、珠玖隆行(岡山大学助教)	
第4部門: 橋本成仁(岡山大学教授)、田坂晃宏(大和クレス総務部長)	
第5部門: 藤井隆史(岡山大学教授)、大島章弘(萩原工業BCI事業部開発第一係長)	
第6部門: 末田俊文(岡山大学講師)、鈴木昌次(大木組土木本部工務部部長)、細谷多慶(ラングス技術部副部長)	
第7部門: 永禮英明(岡山大学教授)、福本英之(ウエスコ環境設計部環境設計課係長)	
第8部門: 岩田 徹(岡山大学教授)、齋藤光代(岡山大学助教)	

学術部会長: 阿部宏史(岡山大学副学長)	特別講演WG
主査: 西山 哲(岡山大学教授)	副査: 田尾和也(中国地方整備局環境調整官)
副査: 田尾和也(中国地方整備局環境調整官)	副査: 森下尊久(JB本四高速岡山管理センター副所長)
副査: 森下尊久(JB本四高速岡山管理センター副所長)	副査: 木本和志(岡山大学教授)
副査: 木本和志(岡山大学教授)	副査: 大久保賢治(岡山大学教授)
副査: 大久保賢治(岡山大学教授)	副査: 近藤秀高(岡山大学教授)
副査: 近藤秀高(岡山大学教授)	副査: 清広雅史(岡山県技術管理課長)
副査: 清広雅史(岡山県技術管理課長)	副査: 藤井隆史(岡山大学教授)
会場設置、アルバイト配置、プログラム編成会議参加等	
第1部門: 木本和志(岡山大学教授)、馬場康成(アサヒ工業技術開発部技術課課長代理)	
第2部門: 吉田圭介(岡山大学教授)、桐川昭信(三井住友建設岡山営業所長)	
第3部門: 金 兼米(岡山大学助教)、大田拓郎(大林組広島支店岡山営業所副課長)、珠玖隆行(岡山大学助教)	
第4部門: 橋本成仁(岡山大学教授)、田坂晃宏(大和クレス総務部長)	
第5部門: 藤井隆史(岡山大学教授)、大島章弘(萩原工業BCI事業部開発第一係長)	
第6部門: 末田俊文(岡山大学講師)、鈴木昌次(大木組土木本部工務部部長)、細谷多慶(ラングス技術部副部長)	
第7部門: 永禮英明(岡山大学教授)、福本英之(ウエスコ環境設計部環境設計課係長)	
第8部門: 岩田 徹(岡山大学教授)、齋藤光代(岡山大学助教)	

19. 平成28年度全国大会の紹介

大会テーマ：

復興、そして創生へ ～土木の力で地域を元気に～

実施期間：平成28年9月7日（水）、8日（木）、9日（金）

実施場所：① 東北大学川内北キャンパス 〒980-8579 仙台市青葉区川内41

（第71回年次学術講演会、研究討論会）

② 仙台国際センター会議棟大ホール 〒980-0856 仙台市青葉区青葉山無番地

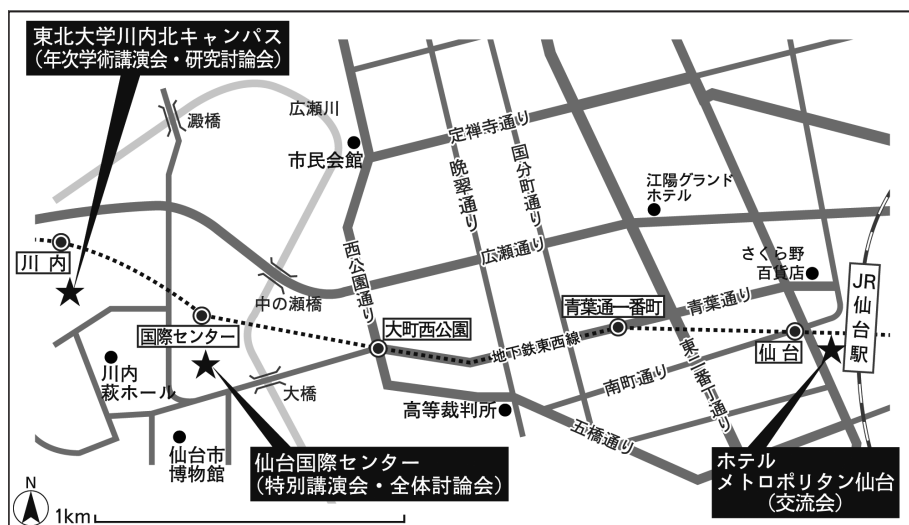
（特別講演会・全体討論会）

③ ホテルメトロポリタン仙台 〒980-8477 仙台市青葉区中央1-1-1

（交流会）

募集行事：エクスカーション（詳細は大会ホームページにて、平成28年5月頃）

会場アクセス：



◇JR仙台駅から

- ・地下鉄東西線「八木山動物公園」行きに乗車
 - ・東北大学川内北キャンパスへは、川内駅にて下車
 - ・仙台国際センターへは、国際センター駅にて下車
- ※所要時間 約5～10分

◇仙台空港から

- ・仙台空港アクセス線「仙台」行きで、JR仙台駅へ
- ※所要時間約25分
- ・仙台駅から上記地下鉄東西線を利用

お問い合わせ ◇土木学会 全国大会委員会事務局 総務課 TEL：03-3355-3442

◇平成28年度土木学会全国大会実行委員会事務局 東北支部 TEL：022-222-8509

（一時保育に関する問い合わせは、東北支部へお願いします。）

大会ホームページ：<http://www.jsce.or.jp/taikai2016/>